

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科		担当者	吉澤	
科目名	自転車乗り方		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	15コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の基本的な乗り方、交通ルールについて学習する。				
◆概要	自転車は自動車と違い、だれでも手軽に楽しめる物ではあるが、しっかりとルールを守る方が少なく、事故が絶えない。将来自転車を職業とする上で自転車の販売・整備のみだけでは無くお客様と接する際、自転車に乗る際に必要なルール・マナーについて学習する。				
2. 授業の計画					
1	自転車に安全に乗るために必要な条件				
2	自転車の仕組み				
3	自転車の日常点検				
4	自転車のTSマーク制度・JISマーク制度・及び・BAAマーク制度・SGマーク制度について				
5	交通ルール(事故事例含む)				
6	自転車について知っておくべきこと				
7	歩行者が自転車に対して気を付けるべき事柄				
8	自動車の運転者が自転車に対して気を付けるべき事柄				
9	自転車で事故を起こした時の対処				
11	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・自転車交通安全ブック ・普通点検整備マニュアル ・TSマークハンドブック ・自転車安全整備制度関係規定					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
日本スポーツ協会公認指導者による、正しい自転車の乗り方・ルール等を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	吉澤	
科目名	トレイル基礎		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マウンテンバイクで山野を走る際のルールやマナー、コース造成や整備についての基礎的な方法や安全管理について学習する				
◆概要	MTBは自然の中で行うスポーツであるが、そのためには走る環境の維持、管理も必要となる。MTBを継続的に楽しむためのコース整備やコースの作り方、走る際の注意事項などを学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	トレイル走行に必要な知識とルール				
2	MTBコース整備に必要な道具				
3	MTBコースの構造と基礎知識				
4	MTBコースの作り方				
5	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・自転車交通安全ブック ・普通点検整備マニュアル					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
一般社団法人DKFREERIDE MTB LOGICトレイルビルダー育成講習修了者による、MTBトレイル整備、乗り方を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	吉澤	
科目名	自転車パーツ基礎		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各自転車の部品名称、規格の違いについて理解する。また機器の正しい取り扱いを習得し取り扱いが出来るようになる。				
◆概要	自転車は一般製品と異なり、メーカーから7分組又は未組立で出荷されることが多い。そのため店舗で組立、整備、検査されたうえでユーザーに販売販売される。したがって自転車を整備するうえで正しい機器の取り扱い、各種自転車の部品名称、役割、構造を理解する必要がある。また産業標準化法及び日本産業規格に関する知識、自転車安全基準に関しても理解する必要がある。				
2. 授業の計画					
1	自転車関係規格について				
2	自転車の日本工業規格・国際規格について				
3	自転車関係のJISについて				
4	自転車部品関係のJISについて				
5	自転車の安全性(性能・構造及び形状・寸法)				
6	自転車の各パーツ部品名称				
7	自転車の各パーツ役割と構造				
8	各種部品の規格と互換性				
9	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・ロードバイク「規格」便利帳 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、正しい機器の取り扱い、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	宮川	
科目名	機器取り扱い		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	整備作業の目的や、作業時の安全管理について学習する。また機器の正しい取り扱いを習得し、安全に配慮した作業、整備機器の取り扱いが出来るようになる。				
◆概要	自転車整備作業は、作業工具や設備、機器の使用を伴うため、安全に対する意識をもって作業を行うことが大切である。基本的な工具の取り扱い方法を学ぶとともに、安全第一の意識、作業工具の適切な選定の考え方などを学ぶ授業である。				
2. 授業の計画					
1	安全作業の心得				
2	整備作業の目的				
3	職場の労働安全				
4	基礎整備作業(工具・機器類の取り扱い)				
5	測定作業(各種測定工具の取り扱い・正しい読み方)				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
自動車整備士経験者による、基本的かつ正しい整備機器や整備工具の取り扱い、作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田	
科目名	自転車構造基礎1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の基本的な部品名称、構造作動、車両による使われ方の違いについて理解する。また種類による整備方法の違いを知り、正しい整備知識に基づいた整備ができるようになる。				
◆概要	自転車は様々な部品から成り立っており、それぞれの部品の構造や作動、使われている自転車の種類等を学ぶことにより、整備作業を論理的に行うことができるようになる。正確で迅速な整備作業を行うための自転車の構造上の知識を身に着ける必要がある。この科目では主にロードバイクを中心に学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	自転車の各パーツ部品名称				
2	自転車の各パーツ役割と構造				
3	各種部品の規格と互換性				
4	ロードバイクの変速機・駆動機構・操作機構				
5	各種機構の取り扱い方法・整備方法				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・ロードバイク「規格」便利帳					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、自転車の構造及び作動、各部名称を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	清水	
科目名	パソコン基礎1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	パソコンを利用した業務のために、パソコンの基本的な使い方を学習する				
◆概要	様々な企業、業務でもほぼ必須とされる、Word、Excelといったアプリケーションの利用を通して、パソコンの基本的な使い方や、文字入力などを学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	Windowsの使い方、電源、ファイルの作成、フォルダの作成、名前の変更など				
2	Wordによる文字入力、書類作成				
3	Excelによる表の作成、関数を使った表の計算、集計				
4	まとめ				
5	ワープロ検定、表計算検定				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ノートパソコン ・タブレットPC ・検定過去問題					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする					
6. 履修上の注意					
7. その他					
アプリケーションの基本的な取り扱いだけでなく、ビジネス文書の作成や、実践的な表計算アプリケーションの使い方を学ぶ					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	溝口	
科目名	デザイン・WEB・動画編集1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	45コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	学習した知識を利用しオリジナルジャージデザイン、オリジナルステッカーとを制作や、動画編集し定期的配信できるレベルを目指す。				
◆概要	少しでも多くのユーザーを確保する為、またスポーツバイクを販売するうえでは、WEB、動画配信、SNSは必要不可欠な技術となっている。WEB、デザインの基礎、動画編集の方法を学習する。				
2. 授業の計画					
1	画像編集ソフトの基本的な取り扱い				
2	画像の補正、加工				
3	イラストの作成				
4	文字入力、タイポグラフィ				
5	WordPressの取り扱い				
6	WEBサーバーの取り扱い				
7	ブログの作成と管理				
8	動画編集ソフトの基本的な取り扱い				
9	動画撮影の基本				
10	動画編集の基本				
11	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ノートパソコン ・タブレットPC					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
7. その他					
アプリケーションの基本的な取り扱いだけでなく、現役のデザイナーやWeb・SNSを活用している広報担当者から、実践的な広告媒体の作成や活用方法を学ぶ科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	宮川	
科目名	用品・ブランド知識		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	スポーツバイクを楽しむために必要な自転車本体、パーツ以外の商品やサービスについて、自ら情報収集し、お客様に様々な観点から提供できるようにする。				
◆概要	スポーツバイクに乗る際には、自転車本体、パーツだけでなく安全装備や快適に楽しむためのアイテムやサービスが必要となる。様々な用途の商品を知ることにより、将来お客様に対して適切な商品説明やサービスの提供をできるようにする。				
2. 授業の計画					
1	自転車に必要な安全装備(ヘルメット、グローブ、プロテクター等)				
2	自転車を快適に楽しむために(シューズ、ウェア、アイウェア等)				
3	ライド中の健康管理(補給食、飲料等)				
4	ライド中のトラブルに備える(携帯工具、救急用品等)				
5	自転車に関連する様々なサービス(宿泊、防犯、保険、移手段等)				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・各商品カタログ					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
お客様に販売、提供できる自転車にかかわる様々な商品、サービスを学ぶ科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	吉澤	
科目名	サービス接客1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	接客対応(応酬話法)を通じて、お客様への聴取の方法や、製品情報の提案などの基礎を学習し、お客様の要望への確に答えられるレベルを目指す。				
◆概要	スポーツバイクを多く取り扱う店舗では、多くの用品知識が求められある。自転車のジャンルや用途、自転車機種。またはユーザーの体型まで考慮し情報を提供するスキルが必要になる。これらを分かりやすくお客様に伝える方法(接客対応の技術)も学習する。				
2. 授業の計画					
1	印象の良いお出迎え(受付対応)				
2	お客様との総合確認(現車を使用した総合確認)				
3	的確な問診(情報を引き出す作業)				
4	お客様ケア(作業進捗説明・待ち時間対応・提案活動)				
5	アフタフォロー(調子伺い)				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・各種カタログ ・アドバイザー業務の基礎					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
実務経験者から受付業務、引き渡し業務、問診など実際の職場で行われているショップスタッフ業務について学ぶ科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	Sean A. Leischner	
科目名	英会話1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車業界で必要となる、英語を使つてのコミュニケーションや、簡単な英語で書かれた取扱説明書の読み取りができるようにする。				
◆概要	サイクルツーリズムが盛んになってきている昨今、日本にも多くの外国人がサイクリングやライドを楽しむために訪れている。そういった外国人観光客ともコミュニケーションを取ることが必要とされている。併せて、英語で書かれていることが多い自転車の取り扱い説明書等もある程度読み取りができるようにする。				
2. 授業の計画					
1	英会話に必要な単語、フレーズ				
2	自分のことを英語で表現する				
3	英語の聞き取り				
4	英語でのコミュニケーション				
5	自転車の構造でよく使われる英語				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・Side by Side Extra					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
英語の基礎を学び、外国の方とも簡単なコミュニケーションをとれるようにすることを目的とする科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	自転車組立基礎1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の基本的な取り扱い、各種部品や装置の取り外し、取り付け、調整方法を学び、七分組で安全な自転車を組み立てられるようにする。				
◆概要	スポーツバイクの組立の基本となる七分組を学ぶ。各種部品の調整、締め付け点検の手順を考え、効率よく、かつ安全な作業できるよう車種ごと学習する。また専門店で行われている作業の技術についても学習する。				
2. 授業の計画					
1	自転車の基本的な取り扱い・注意事項				
2	各装置の作動、取り外し、取り付け、調整方法				
3	一般車の七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
4	ロードバイクの七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
5	MTB七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
6	各種自転車の梱包の仕方				
7	洗車の方法(各種部品の清掃方法・自転車の正しい洗車方法)				
8	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	自転車組立基礎2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の基本的な取り扱い、各種部品や装置の取り外し、取り付け、調整方法を学び、七分組で安全な自転車を組み立てられるようにする。				
◆概要	スポーツバイクの組立の基本となる七分組を学ぶ。各種部品の調整、締め付け点検の手順を考え、効率よく、かつ安全な作業できるよう車種ごと学習する。また専門店で行われている作業の技術についても学習する。				
2. 授業の計画					
1	各装置の作動、取り外し、取り付け、調整方法				
2	一般車の七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
3	ロードバイクの七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
4	MTB七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
5	各種自転車の梱包の仕方				
6	洗車の方法(各種部品の清掃方法・自転車の正しい洗車方法)				
7	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	自転車組立基礎3		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の基本的な取り扱い、各種部品や装置の取り外し、取り付け、調整方法を学び、七分組で安全な自転車を組み立てられるようにする。				
◆概要	スポーツバイクの組立の基本となる七分組を学ぶ。各種部品の調整、締め付け点検の手順を考え、効率よく、かつ安全な作業できるよう車種ごと学習する。また専門店で行われている作業の技術についても学習する。				
2. 授業の計画					
1	各装置の作動、取り外し、取り付け、調整方法				
2	一般車の七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
3	ロードバイクの七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
4	MTB七分組(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
5	各種自転車の梱包の仕方				
6	洗車の方法(各種部品の清掃方法・自転車の正しい洗車方法)				
7	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	SBM取得プログラム ロード1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	スポーツ自転車整備士取得のための、新車組立、持込修理対応の技術を身に着ける。				
◆概要	スポーツ自転車整備士の試験科目である自転車組立(七分組)、故障の想定、バイクチェック、故障原因の特定、故障修理を学び、合格に必要な技術を身に着ける。				
2. 授業の計画					
1	自転車七分組作業				
2	バイクチェック、増し締めによる完成チェック				
3	持込修理対応				
4	問診による故障個所の推定				
5	故障診断				
6	故障個所修理・復元				
7	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	SBM取得プログラム MTB1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	スポーツ自転車整備士取得のための、新車組立、持込修理対応の技術を身に着ける。				
◆概要	スポーツ自転車整備士の試験科目である自転車組立(七分組)、故障の想定、バイクチェック、故障原因の特定、故障修理を学び、合格に必要な技術を身に着ける。				
2. 授業の計画					
1	自転車七分組作業				
2	バイクチェック、増し締めによる完成チェック				
3	持込修理対応				
4	問診による故障個所の推定				
5	故障診断				
6	故障個所修理・復元				
7	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	ホイールビルド基礎1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホイールの組み立て方や触れ取りの方法を学び、ラジアル組によるホイールの組み立てをできるようにする				
◆概要	ホイールのパーツ構成や正しいホイールの組み方、スポークの組み方の種類について学習する。				
2. 授業の計画					
1	ホイールを構成するパーツ				
2	ホイール組に必要な工具と取り扱い				
3					
4	スポークの組み方の種類(ラジアル組)				
5					
6					
7	ホイール組みの基本(ラジアル組)				
8					
9					
10	ホイール組の練習(ラジアル組)				
11					
12	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ホイール編 ・ホイール ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・スポークテンションゲージ ・コンペックス ・振れ取り台 ・ニップル回し ・センターゲージ					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBのホイール(車輪)の正しい組付け、調整方法、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	ホイールビルド基礎2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホイールの組み立て方や触れ取りの方法を学び、JIS組及び逆JIS組によるホイールの組み立てをできるようにする				
◆概要	ホイールのパーツ構成や正しいホイールの組み方、スポークの組み方の種類について学習する。				
2. 授業の計画					
1					
2	スポークの組み方の種類(JIS組、逆JIS組)				
3					
4					
5	ホイール組みの基本(JIS組、逆JIS組)				
6					
7					
8	ホイール組の練習(JIS組、逆JIS組)				
9					
10	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ホイール編 ・ホイール ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・スポークテンションゲージ ・コンペックス ・振れ取り台 ・ニップル回し ・センターゲージ					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBのホイール(車輪)の正しい組付け、調整方法、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	ホイールビルド基礎3		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホイールの組み立て方や触れ取りの方法を学び、イタリアン組及び逆イタリアン組によるホイールの組み立てをできるようにする				
◆概要	ホイールのパーツ構成や正しいホイールの組み方、スポークの組み方の種類について学習する。				
2. 授業の計画					
1					
2	スポークの組み方の種類(イタリアン組、逆イタリアン組)				
3					
4					
5	ホイール組みの基本(イタリアン組、逆イタリアン組)				
6					
7					
8	ホイール組の練習(イタリアン組、逆イタリアン組)				
9					
10	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ホイール編 ・ホイール ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・スポークテンションゲージ ・コンペックス ・振れ取り台 ・ニップル回し ・センターゲージ					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBのホイール(車輪)の正しい組付け、調整方法、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	ホイールビルド基礎4		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	リム及びハブの各部位の測定を行い、ホイール組み立てに必要なスポーク長の計算ができるようにする				
◆概要	ホイールのパーツ構成や正しいホイールの組み方、スポークの組み方の種類について学習する。リム、ハブの測定を行い、適切なスポーク長を割り出すことを学習する				
2. 授業の計画					
1	スポークの組み方と力学				
2	スポーク長計算、各部の測定				
3	ホイール組の練習				
4	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ホイール編 ・ホイール ・ロードバイク ・マウンテンバイク ・スポークテンションゲージ ・コンペックス ・振れ取り台 ・ニップル回し ・センターゲージ ・ノギス					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBのホイール(車輪)の正しい組付け、調整方法、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	機械加工・手仕上げ加工1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車のライドの際に使う小物の製作を通し、工作作業に使用する工具の使い方、安全作業の大切さを学ぶ。				
◆概要	アルミ缶を材料とするアルコールストーブの製作を行う。金属加工に使用する切削工具、測定工具などを適切に用いることにより、より精度の高い工作を行えるようにする。				
2. 授業の計画					
1	工作機器の取り扱いと安全作業				
2	アルコールストーブの原理と構造				
3	工作作業(切断、穴あけ、絞り加工)				
4	仕上げ作業(ヤスリ掛け、研磨)				
5	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・ボール盤 ・ドリル ・ヤスリ ・トースカン ・ノギス					
4. 成績評価の方法					
・製作物による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
自動車整備士経験者による、安全作業のための基本的な切削・作業工具の取り扱い方法を学ぶ授業である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	機械加工・手仕上げ加工2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の保管やメンテナンスに使用するサイクルスタンドの製作を通し、目的に応じた設計の基本、図面の書き方、工作機械の取り扱い方法を学ぶ。				
◆概要	鋼材を使用したサイクルスタンドの製作を行う。安定して快適に使用できるサイクルスタンドの設計、切断や溶接などの作業工具の安全な取り扱いを身に着ける。				
2. 授業の計画					
1	工作機器の取り扱いと安全作業				
2	設計・製図の基礎				
3	サイクルスタンドの設計				
4	材料の切り出しと加工				
5	溶接作業				
6	仕上げ、塗装作業				
7	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・ボール盤 ・ドリル ・ヤスリ ・トースカン ・ノギス ・弓鋸 ・溶接機					
4. 成績評価の方法					
・製作物による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
自動車整備士経験者による、安全作業のための基本的な切削・作業工具の取り扱い方法を学ぶ授業である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	イベント運営1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	学校外	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の各種イベントや大会に多く参加し経験する事で、自ら考え自発的に行動できるようになる。また学生主導でのイベントを企画し運営出来るようになる。				
◆概要	各種イベント・大会のスタッフとして参加し、各イベント、大会運営の方法や準備を体験し、参加者目線、大会運営側目線の両方からの目線で、ユーザーが安全に楽しめる企画を考える。また自らイベントを企画し運営する。				
2. 授業の計画					
1	レインボーカップ(山本幸平選手プロデュース) エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
2	北アルプス山麓グランfond エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
3	全日本選手権自転車競技大会MTB(DHI) コース設営、マーシャル業務、移動マーシャル業務(2年次)、ブース設置準備撤収				
4	ダウンヒルシリーズ(白馬岩岳、富士見パノラマ、安曇野市MTBコース) コース設営、計測業務、マーシャル業務、移動マーシャル業務(2年次)、ブース設置準備撤収				
5	ENS(MTBエンデューロレース) コース準備、マーシャル業務、運営、各ブース設置準備撤収、計測、				
6	シクロクロスミーティング チロルの森 コース準備、マーシャル業務、運営、各ブース設置準備撤収、計測、				
3. 使用教材(テキスト等)					
・大会運営パンフレット ・大会イベント参加企業用パンフレット ・イベント参加報告書					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各大会の関係者からの注意事項等の説明を聞き、当日対応できるよう事前に把握しておく。					
7. その他					
実際の現場スタッフの指示の元、自ら考え行動し、参加するユーザーが求めているものは何かを考え、どう改善するかを考える科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	フィールド整備1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	学校外	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	MTBのコース整備に携わることで、自然に配慮したMTBの走らせ方、コース維持の意識を身に着けることができる。				
◆概要	マウンテンバイクのコース造成、メンテナンスにかかわることで、継続的なマウンテンバイクフィールドの維持管理、自然とのかかわり方、コースやトレイルをいたわる走り方、地域の方々とかかわり方などを学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	ディグ工具の使い方				
2	学科オリジナルコースのメンテナンス				
3	トレイルのメンテナンス				
4	MTBパークのコース整備				
5	新コースを作るためのルート選定、コース造成				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スコップ ・レーキ ・箒 ・鋤簾 ・バケツ等					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
ディグ工具を使う際は周りの状況を常にチェックし、安全作業に最新の注意を払うこと。自転車は事前に入念な整備・チェックを実施し、自転車に乗る装具は事前に用意しておく、また走行中は交通ルールを守					
7. その他					
一般社団法人DKFREERIDE MTB LOGICトレイルビルダー育成講習修了者による、MTBコース・トレイルのメンテナンス、新コースの造成を学ぶ科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	ライディング・プランニング1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	学校外	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々なサイクリングコース、MTBパークなどを走ることにより、自転車の楽しさをお客様に伝えてより多くのお客様に自転車を楽しんでもらうことができる。お客様に安全に楽しんでもらうサイクリングやライドイベントの計画を立てることができる				
◆概要	スポーツバイクは楽しさを求めて乗る人が多いスポーツ、アクティビティである。将来スポーツバイクで				
2. 授業の計画					
1	ライド実習:国営アルプスあづみの公園MTBパーク				
2	プランニング・アテンド実習:安曇野サイクリング				
3	ライド実習:GLOP Ante.				
4	ライド実習:乗鞍エコーラインヒルクライムサイクリング				
5	ライド実習:白馬岩岳MTBパーク				
6	ライド実習:アルペンブリックMTBパーク				
7	ライド実習:富士見パノラマMTBパーク				
8	プランニング・アテンド実習:諏訪湖周遊観光サイクリング				
9	プランニング・アテンド実習:松本市内				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ロードバイク ・マウンテンバイク					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
自転車は事前に入念な整備・チェックを実施し、自転車に乗る装具は事前に用意しておく、また走行中は交通ルールを守ること。					
7. その他					
長野県内の自転車フィールドで、ロードバイク、マウンテンバイクを走らせることで、多方面から自転車の楽しさを体験し、ゆくゆくはお客様に還元できる経験を積む科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・吉澤・宮川・宮原	
科目名	資格取得・一般教養1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・外部	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	正しい機器の取り扱いや、正しい作業方法を習得し安全に正確な作業が出来るレベルを目指す。また発生してしまった事故や怪我への対象方法を学習し、不測の事態へ対処が出来るようになる。				
◆概要	種々の資格取得を通じ、労働安全の重要性や災害の原因を理解し、常に作業する際ほ本人も含め周囲の安全をどのように確保し、万が一事故や怪我が発生したい際はどの様に対処するかを学習する。				
2. 授業の計画					
1	自由研削といし特別教育 ・研削盤・自由研削用といし・取付け具等に関する知識 ・取付け方法及び試運転の方法に関する知識・関係法令・実技				
2	ガス溶接特別教育 ・ガス溶接等の業務のために使用する設備の構造及び取扱い方法に関する知識 ・ガス溶接等の業務のために使用する可燃性ガス及び酸素に関する知識 ・関係法令・実技				
3	アーク溶接特別教育 ・アーク溶接等に関する知識・アーク溶接装置に関する基礎知識 ・アーク溶接等の作業の方法に関する知識・関係法令・実技				
4	ウィルダネスファーストエイド・ベーシックコース(野外救命救急) 傷病者評価システム(PAS)・一次救命処置・重要器官系理解・重要器官系への問題・不安定なケガ(骨折など)・安定したケガ、副木(スプリント)固定ガイドライン・低体温、高体温と熱中症、溺れ、雷、感電、傷や火傷、毒、アナフィラキシー・傷病者の移動・最終試験				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ガス溶接技能者教本 ・アーク溶接技能者教本 ・グラインダ安全必携 ・ウィルダネスファーストエイド					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
溶接講習は危険な作業が伴うため、機器の取り扱いや周囲への安全を確認し作業する。					
7. その他					
各業界の方による、正しい作業方法や進め方。事故事例による安全面の確保などを学習する科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	宮川	
科目名	自転車パーツ知識		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各自転車の部品名称、規格の違いについて理解する。また機器の正しい取り扱いを習得し取り扱いが出来るようになる。				
◆概要	自転車は一般製品と異なり、メーカーから7分組又は未組立で出荷されることが多い。そのため店舗で組立、整備、検査されたうえでユーザーに販売販売される。したがって自転車を整備するうえで正しい機器の取り扱い、各種自転車の部品名称、役割、構造を理解する必要がある。また産業標準化法及び日本産業規格に関する知識、自転車安全基準に関しても理解する必要がある。				
2. 授業の計画					
1	自転車関係規格について				
2	自転車の日本工業規格・国際規格について				
3	自転車関係のJISについて				
4	自転車部品関係のJISについて				
5	自転車の安全性(性能・構造及び形状・寸法)				
6	自転車の各パーツ部品名称				
7	自転車の各パーツ役割と構造				
8	各種部品の規格と互換性				
9	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・ロードバイク「規格」便利帳 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、正しい機器の取り扱い、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	自転車構造1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各メーカーの操作方法やメンテナンス方法の違いについて学習しユーザー正しい取り扱いアドバイスができるようになる。				
◆概要	ロードバイク・MTB問わず各メーカーから多くの部品が販売されています。車体構造・操作機構・駆動系機構とそれぞれの機構や仕組みを理解し正しい取り扱いを学習する。自転車安全基準に関しても理解する必要がある。この科目では主にロードバイクについて学				
2. 授業の計画					
1	自転車の安全性(性能・構造及び形状・寸法)				
2	コンポーネント規格と互換性				
3	シマノ・スラム・カンパニョーロ・電動式変速装置				
4	ロードバイク				
5	ヘッドパーツ・ボトムブラケット・コンポーネント・フレーム交換時の注意と作業方法				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・ロードバイク「規格」便利帳 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・メーカーサービスマニュアル(整備書)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
チームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTB・E-BIKEの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイシクル学科		担当者	清水	
科目名	パソコン基礎2		必修・選択(注記)	必修	前期
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	パソコンを利用した業務のために、パソコンの基本的な使い方を学習する				
◆概要	様々な企業、業務でもほぼ必須とされる、Word、Excelといったアプリケーションの利用を通して、パソコンの基本的な使い方や、文字入力などを学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	Windowsの使い方、電源、ファイルの作成、フォルダの作成、名前の変更など				
2	Wordによる文字入力、書類作成				
3	Excelによる表の作成、関数を使った表の計算、集計				
4	まとめ				
5	ワープロ検定、表計算検定				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ノートパソコン ・タブレットPC ・検定過去問題					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする					
6. 履修上の注意					
7. その他					
アプリケーションの基本的な取り扱いだけでなく、ビジネス文書の作成や、実践的な表計算アプリケーションの使い方を学ぶ					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイシクル学科		担当者	溝口	
科目名	デザイン・WEB・動画編集2		必修・選択(注記)	必修	前・後期
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	69コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1年次に学習した知識を利用しオリジナルジャージデザイン、オリジナルステッカーとを制作や、動画編集し定期的配信できるレベルを目指す。また学校パンフレット制作にも携わる事でデザイン性の大切を学習する。				
◆概要	WEB、動画配信、SNSは必要不可欠な技術となっている。WEB、デザインの基礎と応用、動画編集の方法を学習する。また学校のパンフレットにも携わる。				
2. 授業の計画					
1	画像の補正、加工				
2	イラストの作成				
3	文字入力、タイポグラフィ				
4	Illustratorの取り扱い復習と応用				
5	図形を使ったイラスト作成				
6	文字入力、タイポグラフィ				
7	名刺作成				
8	ステッカーデータ作成				
9	ステッカー作成、切り抜き等				
10	動画編集ソフトの基本的な取り扱い				
11	動画撮影・動画編集				
12	パンフレット制作				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ノートパソコン ・タブレットPC					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
7. その他					
現役のデザイナーやWeb・SNSを活用している広報担当者から、実践的な広告媒体の作成や活用方法を学ぶ科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	吉澤	
科目名	サービス接客2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々なお客様の潜在的なニーズを掘り起こし、要望に応えアドバイスできるレベルを目指す。				
◆概要	実店舗では自転車の車種・用品・乗り方など、様々なお客様からのご要望に的確に応え、アドバイスできる力が必要になる。お客様に対し、求めている商品、有益な情報を提供するコンサルティング能力を身に着ける。				
2. 授業の計画					
1	接客業務の応用 お客様のニーズに合ったサービスの提案活動				
2	提案活動とは				
3	お客様のニーズに合わせた提案活動				
4	交換部品の説明方法				
5	コンサルティング的アドバイスとは				
6	CSを意識したアドバイス				
7	コンサルティング的アドバイスの活用場面				
8	商品コンサルティングに必要な能力				
9	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・各種カタログ ・アドバイザー業務の基礎					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
実務経験者から受付業務、引き渡し業務、問診など実際の職場で行われているショップスタッフ業務について学ぶ科目である。					

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	吉澤	
科目名	トラブル診断		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	40コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期・後期
企業連携	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	問診からの推測で現車の不具合カ所を確認。迅速に発見し原因を特定する。修理箇所、調整箇所を確実に発見出来るようになる。				
◆概要	ユーザーからのメンテナンス依頼は異音・操作不良・変速不良等様々。故障診断を確実にを行うには、フィッシュボーンチャートを利用し原因の振り分けを行う必要がある。その為、各主要部品の作動や構造をしっかりと理解しておく必要が有る。				
2. 授業の計画					
1	故障の種類				
2	頻繁に発生する不具合について				
3	作業に入る前に実施しておく事				
4	問診について				
5	現車の確認				
6	原因の推定				
7	整備とコスト				
8	診断の進め方				
9	フィッシュボーンチャートとは				
10	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・基礎自動車整備作業 ・ロードバイク「規格」便利帳 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・メーカーサービスマニュアル					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
7. その他					
ユーザーから正しく車両の不具合について聞き出す方法と、不具合について推測する事が必要とされる科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・宮川・吉澤・土本	
科目名	SBM 取得プログラム MTB3		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	プロショップならではのコツや注意点を習得学習し、一台の車両をフレームの状態から、ヘッドパーツ、ボトムブラケット、ホイール、サスペンション等を特殊工具等(切削作業・圧入作業等)を使用し正確に組み上げられるようになる。				
◆概要	プロショップではフレーム単体商品からユーザーの好みの部品を組み付ける依頼を受けることもある為、フレームの下処理、多くの規格、部品の相性やそれぞれの部品の調整方法など理解が必要となる。プロショップで必要と思われる技術の基礎を学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	ブレーキ系				
2	ディスクブレーキブリーディング作業・ブレーキ調整・コンポーネント交換等				
3					
4	タイヤ系				
5	タイヤの知識・チューブレスタイヤ組み方と注意事項・クリンチャータイヤ組み方と注意事項				
6	各種タイヤのパンク修理の方法と対処方法				
7	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・スポーツバイクメカニック教本外装変速機編 ・スポーツバイクメカニック教本カーボンロードバイク七分組編 ・ロードバイク・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
元チームメカニック・整備士からプロショップで実践されているMTB整備技術や応用について学ぶ科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	SBM 資格対策		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ユーザーへの問診から現車確認で不具合カ所を推測し、不具合カ所を迅速に発見し原因を特定する。また修理調整を確実に出来る技術を身につける。併せて、SBM検定に出題される持ち込み修理の対策を行う。				
◆概要	ユーザーからのメンテナンス依頼は異音・操作不良・変速不良等様々。故障診断を確実にするには、原因の振り分けを行う必要がある。その為、各主要部品の作動状況を確認し全体を確認し個別に診断する事が必要になる。				
2. 授業の計画					
1	トラブルシューティング				
2	作業にとりかかる前に				
3	原因と現象				
4	問診の方法				
5	現車での確認作業				
6	原因の推測				
7	整備とコスト(料金)				
8	故障診断の手法・効率の良い原因診断とは？・五感の活用・測定機器による診断				
9	点検修復作業				
10	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・スポーツバイクメカニック教本外装変速機編 ・スポーツバイクメカニック教本カーボンロードバイク七分組編 ・ロードバイク・マウンテンバイク ・一般車 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
元チームメカニック・整備士からトラブルの正しい診断方法や、現場での応急処置・対処方法について学ぶ科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	SBM 取得プログラム 特殊1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	MTB・ロードバイクとは違う機構を持つ車両の取り扱いや整備方法を学習し、幅広い車両への対応力を身につける事を目標とする。				
◆概要	近年増えつつあるE-BIKE(電動アシスト自転車)の取り扱いや各部の点検調整方法、設定方法を学習する。またBMX等アクションスポーツ系車両の点検調整等も学習し、MTB・ロードバイクとの違いを理解する。				
2. 授業の計画					
1	電動アシスト自転車(E-BIKE)取り扱い				
2	安全上の注意・各部名称と役割・乗車前点検・駆動ユニット点検確認・バッテリーの取り扱い				
3	充電方法・専用ディスプレイ操作方法と取り扱い・メンテナンス方法				
4	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スペシャライズドTURBO LEVO SL ・HAROBIKES DOWNTOWN DLX ・取り扱い説明書 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・スポーツバイクメカニック教本外装変速機編 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
元チームメカニック・整備士から近年普及しつつある電動アシスト自転車や特殊な機構を備えた自転車についてメンテナンス方法や取り扱いについて学ぶ科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	SBM 取得プログラム 特殊2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	MTB・ロードバイクとは違う機構を持つ車両の取り扱いや整備方法を学習し、幅広い車両への対応力を身につける事を目標とする。				
◆概要	近年増えつつあるE-BIKE(電動アシスト自転車)の取り扱いや各部の点検調整方法、設定方法を学習する。またBMX等アクションスポーツ系車両の点検調整等も学習し、MTB・ロードバイクとの違いを理解する。				
2. 授業の計画					
1	電動コンポーネントの整備				
2	安全上の注意、各部名称と構造、電動コンポーネントの取り付け及び調整方法、故障診断、メンテナンスと取り扱いの注意事項				
3					
4	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スペシャライズドTURBO LEVO SL ・HAROBIKES DOWNTOWN DLX ・取り扱い説明書 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・スポーツバイクメカニック教本外装変速機編 ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・個人工具 ・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
元チームメカニック・整備士から近年普及しつつある電動アシスト自転車や特殊な機構を備えた自転車についてメンテナンス方法や取り扱いについて学ぶ科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	自転車技師・安全整備士1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車技士・安全士資格取得に向けて分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる。				
◆概要	自転車技士は自転構造上の安全性の確保等のため、自転車組立、検査及び整備に関する適切な知識及び技能を習得する。				
2. 授業の計画					
1	自転車技士・安全士取得試験対策 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等				
2					
3					
4					
5					
6					
3. 使用教材(テキスト等)					
・コンペックス ・水平器 ・分度器 ・個人工具 ・電卓 ・振れ取り台 ・トルクレンチ ・MTB ・ロードバイク ・クロスバイク ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・問題集					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
規定時間内(分解25分・組立80分)に組立作業が出来る事も必要となる。					
7. その他					
チームメカニック経験者による、分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	自転車技師・安全整備士2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車技士・安全士資格取得に向けて分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる。				
◆概要	自転車技士は自転構造上の安全性の確保等のため、自転車組立、検査及び整備に関する適切な知識及び技能を習得する。				
2. 授業の計画					
1	自転車技士・安全士取得試験対策 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等				
2					
3					
4					
5					
6					
3. 使用教材(テキスト等)					
・コンペックス ・水平器 ・分度器 ・個人工具 ・電卓 ・振れ取り台 ・トルクレンチ ・MTB ・ロードバイク ・クロスバイク ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・問題集					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
規定時間内(分解25分・組立80分)に組立作業が出来る事も必要となる。					
7. その他					
チームメカニック経験者による、分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	自転車技師・安全整備士3		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車技士・安全士資格取得に向けて分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる。				
◆概要	自転車技士は自転構造上の安全性の確保等のため、自転車組立、検査及び整備に関する適切な知識及び技能を習得する。				
2. 授業の計画					
1	自転車技士・安全士取得試験対策 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等				
2					
3					
4					
5					
6					
3. 使用教材(テキスト等)					
・コンペックス ・水平器 ・分度器 ・個人工具 ・電卓 ・振れ取り台 ・トルクレンチ ・MTB ・ロードバイク ・クロスバイク ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・問題集					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
規定時間内(分解25分・組立80分)に組立作業が出来る事も必要となる。					
7. その他					
チームメカニック経験者による、分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	自転車技師・安全整備士5		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車技士・安全士資格取得に向けて分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる。				
◆概要	自転車技士は自転構造上の安全性の確保等のため、自転車組立、検査及び整備に関する適切な知識及び技能を習得する。				
2. 授業の計画					
1	自転車技士・安全士取得試験対策 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等				
2					
3					
4					
5					
6					
3. 使用教材(テキスト等)					
・コンペックス ・水平器 ・分度器 ・個人工具 ・電卓 ・振れ取り台 ・トルクレンチ ・MTB ・ロードバイク ・クロスバイク ・自転車組立・検査及び整備マニュアル ・問題集					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
規定時間内(分解25分・組立80分)に組立作業が出来る事も必要となる。					
7. その他					
チームメカニック経験者による、分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる科目である。					

学科 <専攻>	スポーツバイク学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	イベント運営2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	学校外	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自転車の各種イベントや大会に多く参加し経験する事で、自ら考え自発的に行動できるようになる。また学生主導でのイベントを企画し運営出来るようになる。				
◆概要	各種イベント・大会のスタッフとして参加し、各イベント、大会運営の方法や準備を体験し、参加者目線、大会運営側目線の両方からの目線で、ユーザーが安全に楽しめる企画を考える。また自らイベントを企画し運営する。				
2. 授業の計画					
1	レインボーカップ(山本幸平選手プロデュース) エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
2	北アルプス山麓グランfond エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
3	全日本選手権自転車競技大会MTB(DHI) コース設営、マーシャル業務、移動マーシャル業務(2年次)、ブース設置準備撤収				
4	ダウンヒルシリーズ(白馬岩岳、富士見パノラマ、安曇野市MTBコース) コース設営、計測業務、マーシャル業務、移動マーシャル業務(2年次)、ブース設置準備撤収				
5	ENS(MTBエンデューロレース) コース準備、マーシャル業務、運営、各ブース設置準備撤収、計測、				
6	シクロクロスミーティング チロルの森 コース準備、マーシャル業務、運営、各ブース設置準備撤収、計測、				
3. 使用教材(テキスト等)					
・大会運営パンフレット ・大会イベント参加企業用パンフレット ・イベント参加報告書					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各大会の関係者からの注意事項等の説明を聞き、当日対応できるよう事前に把握しておく。					
7. その他					
実際の現場スタッフの指示の元、自ら考え行動し、参加するユーザーが求めているものは何かを考え、どう改善するかを考える科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイク学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	フィールド整備2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	84コマ	授業場所	学校外	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	MTBのコース整備に携わることで、自然に配慮したMTBの走らせ方、コース維持の意識を身に着けることができる。				
◆概要	マウンテンバイクのコース造成、メンテナンスにかかわることで、継続的なマウンテンバイクフィールドの維持管理、自然とのかかわり方、コースやトレイルをいたわる走り方、地域の方々とかかわり方などを学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	ディグ工具の使い方				
2	学科オリジナルコースのメンテナンス				
3	トレイルのメンテナンス				
4	MTBパークのコース整備				
5	新コースを作るためのルート選定、コース造成				
6	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
・スコップ ・レーキ ・箒 ・鋤簾 ・バケツ等					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
ディグ工具を使う際は周りの状況を常にチェックし、安全作業に最新の注意を払うこと。自転車は事前に入念な整備・チェックを実施し、自転車に乗る装具は事前に用意しておく、また走行中は交通ルールを守					
7. その他					
一般社団法人DKFREERIDE MTB LOGICトレイルビルダー育成講習修了者による、MTBコース・トレイルのメンテナンス、新コースの造成を学ぶ科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	ライディング・プランニング2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	66コマ	授業場所	学校外	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々なサイクリングコース、MTBパークなどを走ることにより、自転車の楽しさをお客様に伝えてより多くのお客様に自転車を楽しんでもらうことができる。お客様に安全に楽しんでもらうサイクリングやライドイベントの計画を立てることができる				
◆概要	スポーツバイクは楽しさを求めて乗る人が多いスポーツ、アクティビティである。将来スポーツバイクを楽しむお客様に満足していただけるような、サイクリングコースやMTBパークなどを実際に走り、走り方や楽しみ方、案内方法などを学ぶ。				
2. 授業の計画					
1	ライド実習:国営アルプスあづみの公園MTBパーク				
2	プランニング・アテンド実習:安曇野サイクリング				
3	ライド実習:GLOP Ante.				
4	ライド実習:乗鞍エコーラインヒルクライムサイクリング				
5	ライド実習:白馬岩岳MTBパーク				
6	ライド実習:アルペンブリックMTBパーク				
7	ライド実習:富士見パノラマMTBパーク				
8	プランニング・アテンド実習:諏訪湖周遊観光サイクリング				
9	プランニング・アテンド実習:松本市内				
3. 使用教材(テキスト等)					
・ロードバイク ・マウンテンバイク					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
自転車は事前に入念な整備・チェックを実施し、自転車に乗る装具は事前に用意しておく、また走行中は交通ルールを守ること。					
7. その他					
長野県内の自転車フィールドで、ロードバイク、マウンテンバイクを走らせることで、多方面から自転車の楽しさを体験し、ゆくゆくはお客様に還元できる経験を積む科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 ＜専攻＞	スポーツバイク学科		担当者	今田・吉澤・宮川	
科目名	資格取得・一般教養2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・外部	前・後期	前期・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	保険業務の基礎を学び損害保険募集人資格(基礎分野)の取得を目指す。SBM1級スポーツ自転車整備士取得を目指す。電気自動車等の整備の基礎知識を習得する。全経簿記3級商業簿記の取得を目指す。				
◆概要	自転車事故などに対応するために、損害保険に関する専門的な知識や、お客様へ補償内容等分かりやすく保険を説明できる必要があります。スポーツバイクメカニック取得に向け復習と反復練習を行う。店舗運営には簿記の基礎知識は必要となる。				
2. 授業の計画					
1	損害保険取り扱い				
2	・損害保険の基礎知識・保険募集の基本ルール				
3	・保険募集の基本と心構え・損害保険の周辺知識・練習問題				
4	SBM1級スポーツ自転車整備士				
5	・SBM1級スポーツ自転車整備士取得に向け復習・組付け分解調整の反復練習・面接試験練習				
6					
7	電気自動車等の整備の業務に係る特別教育				
8	・近年の自転車も電動化が進んでいる為、正しい電気機器の取り扱いについて学習する。				
9	・電気の基礎知識・安全作業基礎知識・関係法令・練習問題				
10	全経簿記3級商業簿記				
11	・簿記の基礎・商品売買・現金預金・手形等、簿記の基礎について学習する。				
3. 使用教材(テキスト等)					
・損害保険募集人 ・スポーツバイクメカニック教本ロードバイク編 ・スポーツバイクメカニック教本MTB編 ・スポーツバイクメカニック教本外装変速機編 ・スポーツバイクメカニック教本カーボンロードバイク七分組編 ・電気自動車等の整備業務における特別教育用テキスト ・全経簿記3級テキスト					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
電気自動車等の整備の業務に係る特別教育は講習中に実技講習が有るので、取り扱いに十分注意し感電しないよう心掛ける事。					
7. その他					
各業界の方による、正しい作業方法の進め方。事故事例による安全面の確保について学習する。また保険業務の基礎についても学習する科目である。					